

スポーツで災害に強くなる「防災スポーツ」の実施

(ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業)

プロジェクトの実施体制

実証フィールド	学校（小学校）、地域
代表団体	株式会社シンク*
構成団体	一般社団法人日本ウォーキング協会*、東京大学大学院 都市情報・安全システム研究室 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 長ヶ原誠研究室

※「*」はSport in Lifeコンソーシアム加盟団体

プロジェクトの実施概要

ターゲット①	小学校、小学生
ターゲットのスポーツ実施を促すためのポイント	◆防災に「スポーツ」を活用し、主体性を促し、スポーツの有用性を感じさせることで、運動・スポーツの実施意欲を高める。 ◆「防リーグ」用具を一定期間学校に置いておき、児童がいつでも気軽に体験できるようにすることで、興味・関心を高める。
ターゲット②	地域住民（20代～50代中心）
ターゲットのスポーツ実施を促すためのポイント	◆災害時には知識に基づく判断力に加え、とっさに行動できる体力・スピードの重要性を訴求しこれらはスポーツで高めることができる ◆運動・スポーツの中で実施割合の高いウォーキングの要素を組み込むことで、「防災のために歩くこと」の日常的な実施を促す ◆地域の防災（自身の避難経路、防災倉庫等）をウォーキングを通じて学び、災害時に必要なことをスポーツ競技として体験することでスポーツの有用性の認識を高める。 ◆歩くことで体力が付き、災害時に活かせる点を訴求する。

「小学生」や「地域住民」に対して、スポーツを取り入れた防災学習プログラムを実施することで、

スポーツの有用性

スポーツの身近さ

を感じてもらうことにより、スポーツ実施率の向上につなげる。

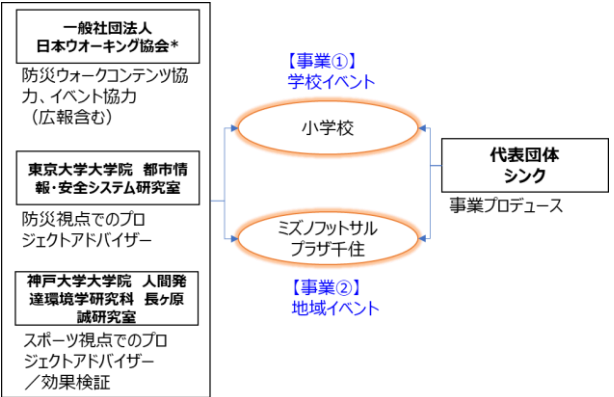
プロジェクト実施内容

- ①小学校、小学生を対象としたプロジェクト
小学校（小学生）をターゲットに「防リーグ」を学校内で実施する（リレー形式）。具体的には、運動会種目のような想定での実施を想定し、実施まで備品を学校内に設置し児童がいつでも気軽に体験できる環境をつくり、習慣化を促進する。スポーツを活用することで「防災の知恵と技を身体で覚える」ことを目指し、児童に対して「スポーツすることが防災に役立つ」という意識を植え付ける。
- ②地域住民を対象としたプロジェクト
地域住民をターゲットに、上記の「防リーグ」に加え、地域の防災（防災施設など）をウォーキングをしつつ、学ぶ「防災ウォーク」を実施する。



※防災スポーツ（防リーグ、防トレ、防災ウォーク）の各コンテンツは株式会社シンクに帰属します。

※防災スポーツ、防リーグは株式会社シンクの登録商標です。

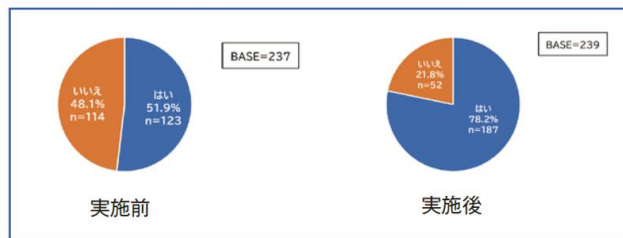


実施内容の報告

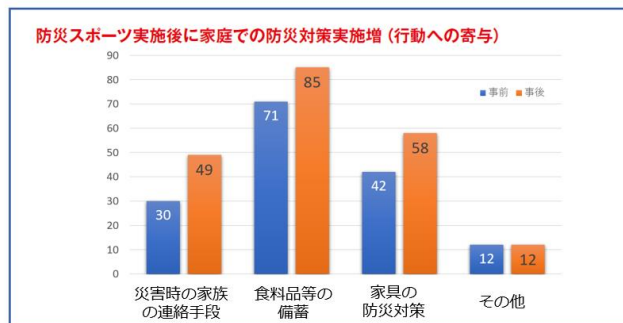
①学校イベント

- ・防災スポーツを実施。
- ・239人参加。(全校児童247人であり、予定通り)
- ・災害時の意識、家庭での防災対策、今後の運動・スポーツ実施希望等の効果を把握。

効果検証①～災害のとき誰かを助けることができそうか



効果検証②～家庭での防災対策



効果検証③～今後の運動・スポーツ実施希望理由

自由回答(抜粋)

- ・みんなで力を合わせることが楽しかったから
- ・防災スポーツで、スポーツに対する意欲が変わったから
- ・いつかこういうことをする時、体力をもっとつけたいから
- ・いつ起きてもおかしくない震災のために備えたいから

対象：千代田区立昌平小学校 小学校1年生～6年生 全247名

実施日：令和2年9月

調査協力：神戸大学マスタースポーツ振興支援室

東京大学大学院工学系研究科 都市情報・安全システム研究室

②地域イベント

- ・告知チラシを制作しメイン会場での配布等を実施、防災スポーツHP・日本ウォーキング協会HPでの告知実施
- ・現地ロケハン、地図制作など準備を推進中

